

# 組織的に取り組む高等学校道德教育に関する一考察

神橋 憲 治<sup>1</sup>

高等学校における道德教育の充実を目指し、学校全体で組織的に取り組むための方策として、既存の教育活動に基づく道德教育の指導を『高校道德カレンダー』にまとめる手法とともに、それらの指導を「有機的なつながりをもった道德教育」とするための方策について研究した。また、校内体制の構築と校内研修の促進のための手立てを検討し、学校全体で組織的に取り組む道德教育の充実に向けた一考察としてまとめた。

## はじめに

近年、規範意識や生命尊重といった道德性の育成が重視されている。中央教育審議会答申「『新しい時代を拓く心を育てるために』一次世代を育てる心を失う危機―」では、21世紀は社会の姿が大きく変貌し、人類の生存基盤を脅かす問題が厳しくなる時代であるからこそ、子どもたちが「生きる力」を身に付け、新しい時代を切り拓く積極的な心を育てていくことの大切さが指摘されている（中央教育審議会 1998）。

今回の学習指導要領改訂における主な改善事項の一つとして、道德教育の充実が掲げられている。そして、新高等学校学習指導要領には、「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育について、その全体計画を作成すること。」が新たに明記され、全体計画を基にして学校全体で取り組む道德教育の充実が求められている。

平成 21 年 9 月 11 日の「子どもの徳育の充実に向けた在り方について（報告）」においては、「子どもたちの間に、また、社会の形成者である大人たちの間にも『徳』が見失われてきているような状況」（文部科学省 2009a）が見られることが指摘されており、徳育の充実に向けた 10 の提言がなされている。そこでは全校的な体制づくりや教員の資質向上等を通して道德教育の充実を目指すことが述べられている。

## 研究の目的

本研究の目的は、教育活動全体で効果的に取り組むことのできる道德教育の指導計画や指導体制の在り方について検討し、その成果を提案することで、高等学校において全体計画に基づき行われる道德教育の充実に資することである。

## 研究の内容

### 1 年間指導計画表『高校道德カレンダー』の作成

各学校が作成する全体計画に基づき、実効的に道德教育を行うための手法として『高校道德カレンダー』

1 カリキュラム支援課 指導主事

を作成する方法について説明する。

#### (1) 道德教育の全体計画

新高等学校学習指導要領では、道德教育の全体計画の作成が新たに求められるようになった。神奈川県では、県教育委員会の指示により、平成 22 年 2 月までに全ての県立高等学校が全体計画を作成し、平成 22 年度より全体計画に基づいた道德教育を実施している。

全体計画の作成とそれに基づく道德教育の関係については、中学校の道德教育での取組みにおいて問題点が指摘されている。平成元年に学習指導要領が改訂されて以来、中学校では道德教育の全体計画が作成されてきた。この度の改訂では、全体計画に「内容及び時期」を示すことが新たに求められるようになった。このことは、全体計画が必ずしも有効に活用されていない場合もあったことを示唆している。これに関して、前国立教育政策研究所教育課程調査官の谷田氏は次のように述べている。「これは、全体計画がややもすると“画餅”に終わっていなかったかという課題に呼応するものでもあろう。確かに“構造図”あるいは“関連図”として一枚ものの全体計画が示されることは、教育活動全体で取り組む道德教育を鳥瞰するためには意味がある。しかし、それが各々の教育活動に具体化され、浸透していくためにはさらなる創意工夫が求められる。」（谷田 2009）

道德教育の要である道德の時間が位置付けられている中学校でさえ、このような状況となっている。高等学校においては、この点に関して、より一層留意して道德教育の全体計画の作成に当たる必要がある。先述のように、高等学校における全体計画の作成は、始まったばかりである。全体計画を効果的に活用し、道德教育の充実を図るために工夫・改善していくことが必要である。

#### (2) 全体計画をより具体的なものにする

「全体計画は作成したが、十分に活用されていない」、「教師間で共通理解を図ることができていない」という全体計画に関する課題について、検討を行うことは重要なことである。

これらの課題の解決に向け、全体計画をより具体的に示す方策が必要である。中学校の道德教育の全体計

画に「内容及び時期」を示すようになったことを参考に、全体計画に示した内容を具体化した道德教育の指導を年間計画表にまとめることが考えられる。ここではこの年間指導計画表を『高校道德カレンダー』と呼ぶこととする。その様式例を第1図に示す。この様式例では、月別に各科目等で取り組む道德教育の指導を記しておくことで、全体計画では表現できない詳細な内容までを示すことができる。また、道德の目標と科目等の目標を併記することで、科目等の教育目標を踏まえながらも道德教育で押さえるべき点を明らかにすることができる。

道德教育は教育活動全体を通じて行うことが求められており、『高校道德カレンダー』を使うことによって全体計画に示された道德教育の目標を具体化することができる。道德教育を学校全体で組織的に取り組むことを前提として、個々の道德教育の指導が行われる必要がある。『高校道德カレンダー』を作成することは、自分が担当している教科等の指導の中で、道德教育の指導を行う各教員にとって、次のような効果が期待できる。

- ・学校で行われる道德教育の全容を把握できる。
- ・担当教科等以外の指導を確認できる。
- ・担当教科等以外の指導との連携を模索できる。
- ・担当教科等の指導の改善の方向性を見いだせる。

このように『高校道德カレンダー』を作成することにより、全体計画を作成するだけでは得られない道德教育の充実に関する効果が期待できる。

### (3) 『高校道德カレンダー』の作成と運用

全体計画に基づき、学校全体で取り組む道德教育のより一層の充実を目指して、『高校道德カレンダー』の作成方法及びその運用方法について説明する。

#### ア 対象生徒の区分を決める

『高校道德カレンダー』の作成に当たっては、教育課程表ごとに行うとよい。第1図は第3学年理系クラスを対象とした『高校道德カレンダー』の例である。学年進行制の学校では、このように学年ごとに作成するとよい。そして、第3学年は生徒の進路希望等に応じて理系と文系などのように教育課程表が分かれていることが多いので、理系と文系で分けて作成してある。また、単位制の学校等では系や系列別に作成したり、専門高校では学科ごとに作成したりと、各学校の実情を踏まえながら検討を行うとよい。

#### イ 『高校道德カレンダー』の縦軸と横軸を決める

横軸は道德教育の流れを時系列で示し、第1図では4月から3月までを1カ月単位としている。場合によっては、「学期ごと」や「週ごと」に設定することも考えられるが、その際には次の3点を念頭においておく必要がある。

- ・道德教育の指導の具体的内容を把握できるか。
- ・道德教育の指導の順序を把握できるか。
- ・道德教育の全体像を把握できるか。

一方、縦軸は教科等で分け、各学年等に配置されている教科・科目や総合的な学習の時間のほかに、ホームルーム活動や学校行事といった特別活動を取り入れ

教科等	道德の目標	科目等	科目等の目標	4月	5月	6月	...	2月	3月
国語		現代文A					...		
地理歴史		日本史B							
公民		現代社会							
数学		数学Ⅲ							
		数学B							
理科		物理							
		生物							
保健体育		体育							
芸術		音楽Ⅲ							
		美術Ⅲ							
		工芸Ⅲ							
		書道Ⅲ							
外国語		コミュニケーション英語Ⅲ							
		英語表現Ⅱ							
総合的な学習の時間		探究Ⅲ							
特別活動		ホームルーム活動							
		生徒会活動							
		学校行事							

第1図 『高校道德カレンダー』の様式例

る。さらに、各学校の特色を表す学校設定科目や重点的に取り組んでいる学校行事、地域貢献活動など、道徳教育の学校目標を具体化できるものを、積極的に取り入れる。ただし、学校全体で行われる道徳教育を俯瞰できるように、完成した『高校道徳カレンダー』の情報量が多過ぎたり、少な過ぎたりしないように配慮する必要がある。例えば、選択の帯を区別できるように整理して組み入れたり、履修人数の少ない自由選択科目の扱いを検討したりすることが挙げられる。

#### ウ 道徳教育の指導にいかせる教育活動を確保する

道徳教育の指導を計画する際には、既存の教育活動の中で、既に道徳教育となっているものや、意識すれば道徳教育となるものなどを積極的に活用するとよい。それらの教育活動を『高校道徳カレンダー』に組み入れていく際には、「どのような学習内容・題材を用いるのか」、「どのような学習活動を通して行うのか」、「どのような道徳的価値に基づいて行うのか」を明示することで、道徳教育の指導を具体的にイメージすることができる。そして、それぞれの道徳教育の指導の担当者間における意思疎通も容易となる。

#### エ 道徳的価値を明示する

『高校道徳カレンダー』に示されたそれぞれの道徳教育の指導には、育成を目指す道徳的価値を明示しておく。それにより関連する道徳教育の指導を結び付けやすくなる。第2図は『高校道徳カレンダー』記入例の一部である。月別・科目別のマスの中には、扱う題材のほかに、道徳の内容項目の番号と道徳的価値を記す。新中学校学習指導要領には、中学校の道徳で指導すべき観点として、24の「内容項目」が示されている。高等学校学習指導要領には、この内容項目が示されていないが、中学校道徳教育の内容を踏まえた上で、高

校生の発達段階にふさわしい道徳教育を行うこととされている。『高校道徳カレンダー』のマスの中には、中学校学習指導要領の内容項目の番号「1-(4)」、「4-(4)」や、高校生として育成したい道徳的価値「真理愛」、「役割と責任の自覚」などを記す。その際、道徳の時間で計画されているように24の全ての内容項目を均等に組み入れることができるとは限らない。

また、『高校道徳カレンダー』のマスの中に書き込めない題材、指導方法、道徳教育のねらいなどについては、別葉を作成して付記しておくことで、見やすい『高校道徳カレンダー』とすることができる。

#### オ 道徳教育の指導をバランスよく組み入れる

道徳教育は各教科等の特質に応じて行うこととされており、毎時間、毎月、全教科・科目等で道徳教育に取り組めるとは限らない。いつ道徳教育の指導を行うことができるのか、いつ行うことが効果的かなどを吟味し、『高校道徳カレンダー』のマス埋めていく。そのため、全てのマスを形式的に埋める必要はない。また、場合によっては一つのマスの中に複数の指導を取り入れる場合もある。その場合にも、主として扱うのか、副として扱うのか、または主として扱うものだけを記入するのかなどについても検討する必要もある。例えば、ほかのマスへの記入状況等を踏まえながら、組み入れる道徳教育の指導を吟味する必要が出てくる場合もある。

#### カ 組織的に作成し、改善する

『高校道徳カレンダー』の作成に当たっては、全教員が組織的に作成や改善を行うことが重要である。その際の工夫として、電子ファイルの共有化が挙げられる。各学年、系や系列、学科ごとに表計算ソフトで作成した『高校道徳カレンダー』の様式の電子ファイルに共有設定を施しておく。このファイルは校内ネットワーク上の共有フォルダに保存しておき、各授業担当者は担当する教科等のマスに道徳教育の指導を入力する。このような作業を経て、年度開始時に『高校道徳カレンダー』を完成させておく。

『高校道徳カレンダー』作成の初期年度においては、実施後の評価により、道徳教育の指導を見直す必要が出てくる場合もある。その際には、年度途中であっても追加や変更のあった指導については、適宜、追記や修正を行う。このように修正していくことで、年度末にはより現実的な『高校道徳カレンダー』へと改善され、次年度作成時の参考となる。

また、自分の担当教科等のマスの内容に変更がなくても、他教科等で自分が扱う道徳的価値に関連した指導に追加や変更がある場合に備え、定期的に『高校道徳カレンダー』を確認しておく必要がある。

個々の教員による個別の取組みを積み重ねることで、学校における道徳教育の指導は充実していくが、これを組織的な取組みにしていけるためには、推進体制づく

科目等	科目等の目標	4月	5月
現代文A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評論、小説等の発展的な読解力の育成</li> <li>・思考力の育成</li> <li>・人間尊重の精神、生きる喜びを共に分かち合える生活者としての態度の育成</li> </ul>	心に『海』を持って <b>1-(4)</b> 、 <b>4-(4)</b> <b>真理愛、</b> <b>役割と責任の自覚</b>	
日本史B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の歴史の展開に関する世界史的な視野からの考察力、日本の文化と伝統の特色に関する認識の深化と歴史的な考察力の育成</li> </ul>		律令国家の形成 <b>4-(10)</b> <b>国際的視野</b>

第2図 『高校道徳カレンダー』記入例の一部

りや道德教育担当者の存在が重要となる。

## 2 有機的なつながりをもった道德教育

『高校道德カレンダー』で示された道德教育の指導を互いにどのように連携させていけるかによって、組織的に取り組む道德教育となり得るかどうかが決まる。その手法について、一つの方法を提案する。

### (1) 「総合単元的な道德学習」

道德教育は教育活動全体を通じて行うものとされ、小・中学校の教育課程上、道德は各教科・総合的な学習の時間・特別活動と並べられている。そして、これら教育活動における道德教育を補充・深化・統合するものとして、小・中学校では「道德の時間」が設置されている。本研究の助言者である昭和女子大学大学院教授押谷由夫氏はこのことについて「道德は、本来横断的・総合的な学習を基本としている」（押谷 1997）と述べている。

その押谷氏の提唱する「総合単元的な道德学習」は、教育活動全体を通じて取り組む道德教育の具体的方法として知られている。「総合単元的な道德学習」は、道德教育を「道德の時間」だけで行うのではなく、学校全体の教育活動を相互に関連付けて道德教育に取り組むものであり、その特徴としては、特定の道德的価値をねらいとして設定する、「道德の時間」を中心に位置付ける、ほかの学習活動や日常生活と関連をもたせるなどが挙げられる。

### (2) 『高校道德カレンダー』を用いた道德教育の充実

道德教育の要として機能する「道德の時間」がない高等学校では、学校全体で取り組む道德教育の方策に「総合単元的な道德学習」を適用することはできない。そこで『高校道德カレンダー』を活用し、他教科や様々な行事などとの連携を図りながら、道德教育を組織的な取組みにしていく方策が必要である。

『高校道德カレンダー』を作成することで、それぞれの道德的価値を扱う道德教育の指導の分布を把握することができる。その分布に関しては、横軸方向の広がりとは時系列でのつながり、縦軸方向の広がりとは教科間等でのつながりを表している。（第3図）

『高校道德カレンダー』の中には、同じ道德的価値を扱った道德教育の指導を複数見いだすことができ、これらの道德教育の指導がどのように分布しているかを確認することができる。そして、時系列でのつながりに関しては自分の担当する道德教育の扱い方を検討するとともに、教科間等でのつながりでは各担当者間で互いの道德教育の指導のつながりを確認し、連携を模索することで、道德教育はより効果的で組織的な取組みとなる。その際には、補充・深化・統合を図る教育活動を位置付けることができるように工夫する。

### (3) 有機的なつながりをもった道德教育の構築

神奈川県立総合教育センターでは、平成 13、14 年度

教科等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語												
地理歴史												
公民												
数学												
理科												
保健体育												
芸術												
外国語												
総合的な学習の時間												
特別活動												

第3図 『高校道德カレンダー』におけるつながり

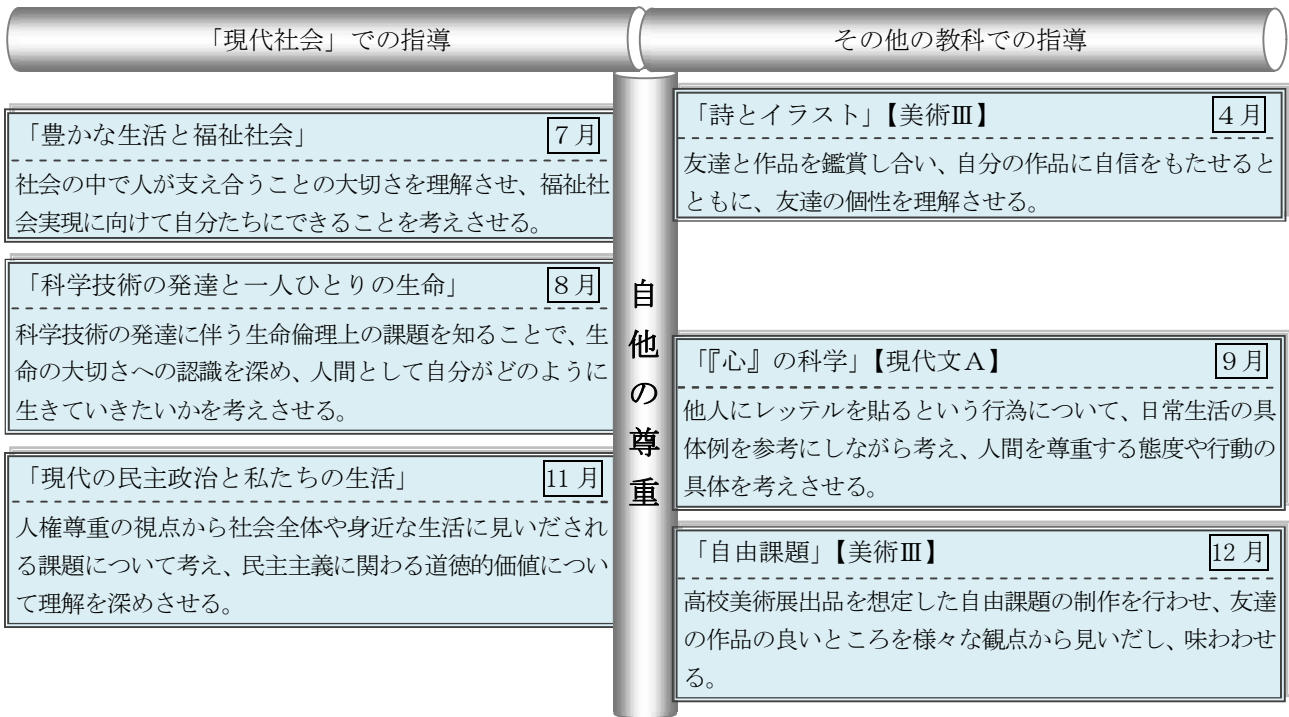
に「体験活動を生かした道德教育」の研究を行い、体験活動と道德の時間の関係を「関連図」にまとめている。関連図にまとめることの長所として「体験活動と道德の時間のねらいを明確に把握することが出来る。」（神奈川県立総合教育センター 2004）や「体験活動と道德の時間の関係がわかりやすい。」（同）などが挙げられている。

本研究では「総合単元的な道德学習」のように、教科等を超えて関係の深い複数の道德教育の指導を、「体験活動を生かした道德教育」の表現手法である関連図で示す方策を検討した。『高校道德カレンダー』を作成することで明らかになった、互いに関連のある道德教育の指導を連携させながら道德教育に取り組んでいく。ここではそのようにして取り組まれる道德教育を「有機的なつながりをもった道德教育」と呼ぶこととする。その関連図の具体例が第4図である。

「有機的なつながりをもった道德教育」の関連図では、縦方向に上方から下方に向けて時間の流れを表している。また、中心の軸には、これらの教育活動で扱う道德的価値を明記することとし、第4図では「自他の尊重」を扱っている。さらに、軸の左右で教育活動を分けて記述する。第4図の場合、軸の左側を「『現代社会』での指導」、右側を「その他の教科での指導」に分けている。そのほかの分け方には、「教科での指導と教科外での指導」や「総合的な学習の時間での指導とその他での指導」、「ホームルーム活動での指導と学校行事での指導」などが挙げられる。

「有機的なつながりをもった道德教育」の関連図で示された道德教育の指導は、『高校道德カレンダー』に示される道德教育全体の一部分であり、同じねらいの道德的価値だけを取り出したものという関係にある。

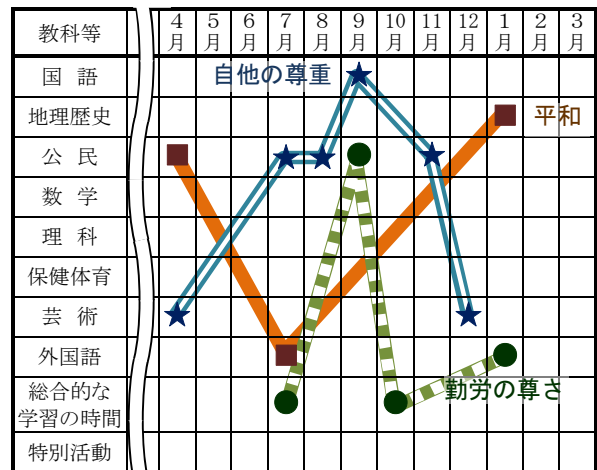
『高校道德カレンダー』に示された道德教育の指導において、同じ道德的価値に基づいて行われる道德教育の指導を折れ線をつなぐと、第5図のように図示できる。この表現方法により、『高校道德カレンダー』は幾つもの「有機的なつながりをもった道德教育」を



第4図 「有機的なつながりをもった道徳教育」の関連図の例

含む関係を明示することができる。例えば、第4図で示した道徳的価値「自他の尊重」に関する関連図の内容は、第5図の国語、公民、芸術をつなぐ二重線部分として表わすことができる。そして、この『高校道徳カレンダー』には、ほかに「平和」や「勤労の尊さ」といった道徳的価値に関する「有機的なつながりをもった道徳教育」が示されている。

『高校道徳カレンダー』には学校全体で行われている数多くの道徳教育の指導が書き込まれているが、各担当者が扱うのはそのうちの一部である。各教科等の担当者が「有機的なつながりをもった道徳教育」の関連図を作成し、関係している教科等の担当者と連絡を取り合い、道徳教育を実践することで、「有機的なつながりをもった道徳教育」に取り組むことができる。そして、その内容を第5図のように示すことで、その学校の道徳教育の全体と各道徳教育の指導との関係を明確化することができる。このとき、各教科等の担当者がそれぞれ自発的に他教科等と連携を試みることは大切であるが、個人の取組みで終わってしまうと、学校全体としての組織的な取組みとなりにくい。そこで、教科や学年などの組織グループにおいて、各担当者が取り組む道徳教育の指導について、互いに情報を共有し合い、更なる連携を模索したり、道徳教育の指導に偏りが見られる場合には調整のための協議を行ったりするとよい。さらに、こうした各組織グループでの道徳教育の指導が学校全体としてどのように行われているのか把握し、学校としての方向性を示すためには、そのための組織や担当が必要である。道徳教育推進のための組織や担当を設置することは、道徳教育を



第5図 『高校道徳カレンダー』における「有機的なつながりをもった道徳教育」

教員個人の取組みに終わらせず、学校全体での取組みとすることに役立つ。このようにすることで、各学校の重点目標に基づいて「有機的なつながりをもった道徳教育」を実践していくことができる。

また、「有機的なつながりをもった道徳教育」に取り組むことで、個々の道徳教育の指導が個別に行われるときと比べ、その内容が質的に向上することが期待され、学校全体における道徳教育の更なる充実を図ることができる。

(4) 各計画の見直しと道徳教育の改善

各担当者が道徳教育の指導を行った後、その指導が生徒の状況を踏まえていたのか、生徒の反応はどうだったのかなどを把握し、指導の妥当性を確認し、道徳教育の指導計画の見直しを行う。その際には、授業を

受けた生徒へのアンケート結果や学校評議員会及びPTA懇談会などで得られた家庭・地域の意見を検討材料とすることで、幅広い意見に基づいた見直しを行うことができる。また、このような家庭・地域との交流は、学校で取り組んでいる道德教育の内容を家庭や地域へ発信する役割を担うだけでなく、必要な場合に家庭・地域から支援を受けやすくなるという利点ももっている。

道德教育の指導計画を見直すことに伴って、『高校道德カレンダー』や「有機的なつながりをもった道德教育」の関連図についても、その見直しを行う。こうした見直しの繰り返しは、『高校道德カレンダー』や「有機的なつながりをもった道德教育」の関連図をより現実的で、効果的なものへと改善することにつながる。そして年度末には、これらの見直しの視点を、翌年度の道德教育の全体計画の作成に活用していく。

### 3 校内体制の構築と校内研修の促進

「有機的なつながりをもった道德教育」を学校全体での組織的な取り組みとするために必要な、校内体制の構築について説明する。

#### (1) 道德教育の推進体制の構築

##### ア 管理職のリーダーシップ

『高等学校学習指導要領解説 総則編』には、道德教育の全体計画は校長の方針の下に作成すること、管理職のリーダーシップが不可欠であることが示されている（文部科学省 2009b）。

また、中央教育審議会答申「『新しい時代を拓く心を育てるために』一次世代を育てる心を失う危機―」では、道德教育の充実に向けて、教員一人ひとりの意識の向上が重要であり、校長がリーダーシップを発揮して教員の啓発に努めることが求められている（中央教育審議会 1998）。

このように、管理職が学校の教育目標に基づいて、方針を明確に打ち出し、全教員で理念を共有できるようにすることがまず大切である。このように組織としての教育方針を明示することが、一人ひとりの教員の指導方針の決定を支え、自信をもって指導に当たることができる指導集団を形成することにつながる。

##### イ 校内体制の構築

管理職のリーダーシップの下に、全教員が取り組む道德教育を安定的かつ円滑なものにするために、校内体制を整える必要がある。

体制づくりにおいては、新たな運営組織として「道德教育推進委員会」を立ち上げる方法もあるが、現存する学校運営組織（各教科・学年・グループ・委員会など）を活用する方法もある。この場合には、より速やかな対応が可能となる。

そのほかの校内体制整備例としては、学年代表者で構成される「学年代表者会」のような各組織の代表者

で構成する方法もある。また、道德教育の取組みは、家庭や地域の協力を得ることでより充実したものとなる。そこで、PTA役員や地区自治会長などを加え、家庭・地域と連携を図った校内体制づくりとして、PTA役員会や学校評議員会などと道德教育推進のための会議を同日に開催するなどの工夫も考えられる。

##### ウ 道德教育担当者の設置

学校全体で道德教育に取り組むための連絡調整役として道德教育担当者を設置することも有効である。高等学校においては、学習指導要領改訂により中学校で新たに設置が義務付けられた「道德教育推進教師」のような担当者を設置する義務はない。しかし、管理職のリーダーシップの下に行われる道德教育をより円滑に行うためには、道德教育担当者を設置することが望ましい。さらに将来的には、各学校の取組みの状況に応じて、調整的役割だけでなく推進的役割や助言的役割を道德教育担当者にもたせることで、より道德教育の充実を図ることができる。第1学年に道德を設けている茨城県の高等学校では、「豊かな心育成コーディネーター」が中心となって、計画を実施したり、改善のための研修体制を確立したりしている。

##### (2) 校内研修の推進

道德教育の取組みについて、研究や研修はまだまだ十分とは言い難く、そのための研修機会を設けることは重要である。

本研究には、県立高等学校3校から各1名の教諭が調査研究協力員として関わり、それぞれの所属校において、道德教育の研究授業を行った。その際、校内教員には研究授業の参観とその後の研究協議会への参加を依頼した。それぞれの学校において、研究授業には10名前後の参観者があり、そのうちの多くの教員が研究協議会に参加した。研究協議会では、道德教育の取組み方のヒントを確認したり、自分の担当教科で行う道德教育について考えたりするなど、様々な意見が出された。意見交換を通して、互いに道德教育への理解を深めている様子をうかがうことができ、道德教育の取組み方への教員の関心が高いことが分かった。これら研究授業と研究協議の詳細については、本研究に関連して神奈川県立総合教育センターが作成している研究成果『高等学校における道德教育の充実に向けて』にまとめている。各学校における実践の参考にしたい。また、

神奈川県では、校内研修の活性化を図ることを目的として、平成19年度から3年間にわたって「校内研修コーディネーター養成講座」を実施してきた。3年間で約525人の総括教諭がこの研修講座を受講し、県内各学校で校内研修コーディネーターとして配置されている。各学校で行う校内研修の企画・立案に際しては、この校内研修コーディネーターを活用することが考えられる。

### (3) 校内研修の形態

#### ア 研究授業と研究協議会

道徳教育の研究授業を行い、その後、参観者を中心として研究協議会を行う方法は、最も一般的な授業改善のための方策である。

研究授業には、ホームルーム活動や総合的な学習の時間を使って「道徳の時間」を模した形態で行う場合や、教科指導に道徳教育を取り入れる形態で行う場合がある。前者では学年団の教員を中心に、後者では教科の教員を中心にできるだけ多くの参加を促し、研究協議会を行うように工夫する。

研究協議会では、研究授業の良い点や課題となる点などを分析する必要がある。分析方法には様々な手法が知られているが、付箋紙を活用してワークショップ形式で研究協議を進めたり、研究協議会で生徒にインタビューを行って成果と課題を確認したりする学校も増えている。研究授業と研究協議会を学校評議員などの学校外の意見を求める場とすることで、教員が地域の要請を直接聞くこともできる。

平成 19 年度に当センターが作成した「高等学校版 授業改善のための授業分析ガイドブック」には、16 種類の授業分析法が紹介されている（神奈川県立総合教育センター 2008）。道徳教育のねらい、指導場面、指導期間などを考慮し、適切な分析法を用いて、研究協議会を行うことができる。次に、道徳教育の研究協議会で活用することができる二つの分析例を紹介する。

#### (ア) 理解を深める発話の質的分析

道徳教育の授業形態として、道徳的に葛藤する場面を生徒に与えることで道徳性の育成を目指すモラルジレンマ授業が知られている。この授業では、生徒同士が意見交換を行う中で、道徳的価値に基づく考えをより明確にしたり、深めたりする。研究授業でモラルジレンマを取り上げた後の研究協議会において、授業中の生徒の発言内容を取り上げ、どの場面で生徒の考えがより明確になり、深まっているのかを分析する方法が「理解を深める発話の質的分析」である。ビデオを視聴して、授業場面のどこで生徒の思考が揺さぶられている発話が出現するのかを洗い出し、その場면을再視聴しながら協議する。

#### (イ) VTR 中断法による分析

授業者と学習者の両方をビデオ撮影し、討議をしたい場面でビデオを一時停止して分析を行う方法である。

ビデオ撮影した授業の中から、授業者が道徳教育として工夫した場面などを選び、「その場面をどのように認知していたか」、「そのとき、計画を変更する必要を感じていたか」、「どのような代替策(手立て)を考えていたか」などについて説明を行う。参加者は「自分が授業者だったら、どのようにするか」といった意見を述べ、参加者全員で代替策について話し合い、互いの授業観を基に協議する分析方法である。

#### イ 講義形式の校内研修会と校内研修支援パック

道徳教育を踏まえた授業づくりに向けて、全教員が道徳教育に関する基礎的知識を身に付け、共通理解を図るための方策として、講義形式の一斉研修の形態が考えられる。その際には、自校の生徒の状況を把握したり、自校の生徒への指導に必要な道徳的価値を検討したりするために、ワークショップ形式の演習を取り入れることも効果的である。全教員で協議することは、学校全体で道徳教育に取り組んでいくことに大きな助けとなる。

研修会実施に当たっては、講師は校外から招いた人員や校内の教員が務めることが多いが、いずれの場合においても講師の選定や講義の準備には労力が必要である。教員が講師となって行う校内研修会の充実を目指して神奈川県立総合教育センターが作成したツールに、校内研修支援パックがある。校内研修支援パックにはプレゼンテーション・ファイル、読み上げ原稿、参考資料、利用の手引きなどの校内研修会の実施に必要な電子データをまとめており、本研究に関連した校内研修支援パックも作成している。この中には新学習指導要領における道徳教育についての改善点、小・中学校の道徳教育の理解、高等学校における道徳教育推進のポイントなどの内容を収録しており、校内研修会に役立つ内容となっている。この校内研修支援パックを活用することで、より効率的な研修会の実施が図られることが期待される。

#### ウ 日常業務における授業づくりや情報交換

研究協議会や校内研修会が計画されていなくても、日常業務での取組みが道徳教育の推進に役立つことも多い。例えば、道徳教育の指導に適した読み物資料はないか、どのように道徳的価値に迫るのかなど、職員室で相談することなどが考えられる。また、教員間で外部講師に適した人材はいるかなどを情報交換したり、自分が使った教材に対する生徒の反応や課題点を話し合ったりすることも有効な研修機会となる。

#### (4) 家庭や地域社会との連携に向けた学校組織としての取組み

道徳的内容に対する生徒の学習機会を学校だけでなく、家庭や地域との連携を通じてどのように拡充していくかは、重要な課題の一つである。学校が家庭や地域と互いに連携し合って道徳教育に取り組むことを意識しておくことが大切である。

#### ア 家庭や地域への支援

中央教育審議会答申「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」によると、他国に比べると日本の保護者は子どもへの関与の度合いが低く、規範意識に関する指導を学校に求める度合いが高い（中央教育審議会 2007）。

そこで、学校は「保護者用アンケートを実施する」、「保護者面談で働き掛けて、家庭で道徳的内容を話題

にしてもらう」などの取組みを行うことによって、道徳教育に対して保護者の意識を啓発し、家庭における道徳教育を促すことが重要である。また、学級通信や学年通信などを通じて、道徳教育の取組みを紹介することも有効である。保護者がこのような学校の便りを心待ちにするようになったとの報告もなされている。このように、取組みと成果を報告することは、その後の道徳教育の取組みに対して教員がより主体的、積極的に取り組む効果を期待でき、道徳教育のより一層の充実を図ることができる。

これまでに様々な学校で取り組まれてきた教育活動には、道徳教育の推進が地域支援に役立つものも数多い。地域清掃や緑化整備などを含めたボランティア活動の取組みや、特別養護施設や高齢者介護施設等への慰問や手伝いに参加する取組みなどがこれに当たる。

#### イ 家庭や地域からの支援

道徳教育を支援してもらおうという視点から、家庭や地域との関わり方を検討することも有意義である。道徳教育の充実に向けて、生徒に感動を体験させる指導に必要な人材を活用することや、地域住民や保護者の理解や協力を得て道徳教育を進めることが求められており、地域人材の例としてスポーツの指導者、伝統文化の継承者、企業の専門家、外国人留学生などが考えられる。学校での取組みを家庭や地域へ発信したり、道徳教育の更なる充実に向けて、家庭や地域へ協力してほしいことを依頼したりすることで、こうした人材がより確保しやすくなる。

### 研究のまとめ

高等学校における道徳教育を学校の教育活動全体で組織的に取り組むための方策の一方法として、『高校道徳カレンダー』を作成し、「有機的なつながりをもった道徳教育」の関連図に表し、道徳教育の取組みを促す手法を提案した。また、道徳教育推進に向けた校内体制の充実方法とそのため具体的な取組手法についても提案した。高等学校における道徳教育の具体的な手法について解説された著書等は少なく、その点において本研究の成果は意義深い。しかし、本研究の提案内容の多くは実践及び検証を伴っておらず、今後、そうした取組みを行うことで、成果や課題を明らかにしていく必要がある。本研究の提案を踏まえた取組みにより、道徳教育が充実していくことを期待する。

### おわりに

神奈川県立総合教育センターで作成した高等学校道徳教育に関する研究成果『高等学校における道徳教育の充実に向けて』を当センターWeb ページからダウンロードすることができる。併せて参考としていただ

きたい。(http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp)

なお、ご多用の中、研究に参加し、多くの貴重な助言を頂いた昭和女子大学大学院の押谷由夫教授、そして本研究を進めるに当たってご協力いただいた3名の調査研究協力員及び研究授業と研究協議会に参加していただいた職員の方々に深く感謝を申し上げます。

#### [調査研究協力員]

県立横浜栄高等学校 桐谷 鋼哉  
県立秦野曾谷高等学校 大谷聡一郎  
県立大井高等学校 後藤 英之

#### [助言者]

昭和女子大学大学院 押谷 由夫

### 引用文献

- 神奈川県立総合教育センター 2004 「多様な指導方法を工夫した道徳教育」 p.6  
文部科学省 2009a 「子どもの徳育の充実に向けた在り方について(報告)」 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1286128.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1286128.htm) (URLは2010年12月取得)  
押谷由夫 1997 「総合単元的な道徳学習のすすめ」(岡山県小学校道徳教育研究会『子どもとつくる総合単元的な道徳学習』) 東洋館出版社 p.172  
谷田増幸 2009 「道徳教育の改善/充実にかかる視点とその具体的方策—推進体制づくりと指導計画の作成を中心に—」(兵庫県立教育研修所『兵庫教育平成21年8月号』) p.29

### 参考文献

- 茨城県教育委員会 2006 『高等学校道徳教育指導資料—魅力ある「道徳」の実践を目指して—』 pp.23-25  
神奈川県立総合教育センター 2008 「高等学校版 授業改善のための授業分析ガイドブック」 pp.39-40, p.43  
中央教育審議会 1998 「『新しい時代を拓く心を育てるために』—次世代を育てる心を失う危機—」 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/12/chuuou/toushin/980601.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/chuuou/toushin/980601.htm) (URLは2010年12月取得)  
中央教育審議会 2007 「次代を担う自立した青少年の育成に向けて(答申)」 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/07020115.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/07020115.htm) (URLは2011年1月取得)  
文部科学省 2008 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 日本文教出版 pp.21-22  
文部科学省 2009b 『高等学校学習指導要領解説 総則編』 東山書房 pp.62-65  
押谷由夫 2010 「これからの道徳教育」(小島宏編集『各教科・領域等における道徳教育の進め方の実際』教育出版 p.4